

日本武尊  
前編

島田  
建仁

青山ライフ出版

## 神話からの連想

神話は日本人の心の故郷です。その神話から歴史へ、日本国誕生の世界に御招待します。

## 日本武尊

奈良県より西に広がる大国・大島根の国、いわゆる秋津州がある。だが、大島根の国・秋津州と言っても奈良県以西の一部に過ぎない。

東には十何倍の人口と広大な肥沃な蝦夷の大地があった。

天皇の西日本に比べ、東日本は十何倍もの強国であった。

その、おびえ死ぬ程まで恐れていた強国・東日本を何故、日本武尊が征服出来たのか。東日本人の十分の一程しか居ない天皇の西日本人が、どうして東日本を、そして日本を支配する様になったのか。その日本国誕生の歴史を述べていく。

# 日本武尊 前篇

日本武尊は日本国を誕生させた英雄である。

日本武尊 前編◆◆目次

双子の兄弟	6
景行天皇の九州遠征	10
熊襲討伐	22
英雄 日本武尊出動	31
東国遠征	40
焼津のだまし討ち	55
弟橘媛	59
強国・東日本の征服	62
徳山堂の本	73

## 双子の兄弟

約二千年前、ヨーロッパではローマ帝国が円熟期を迎えていた。隣国・中国では漢が滅び、卑弥呼の魏志倭人伝で知られる魏の国も滅びようとしていた。

その時代に日本では英雄・日本武尊が現れ、おびえ死ぬ程まで恐れていた強国・蝦夷を征服して新しい日本国が誕生した。

日本武尊は幼き十六才で出陣し、九州から東北まで征服し、二十五才でタマシ討ちに合い殺されるまで、青春をかけ抜けた。

若き日本武尊が、父なる天皇にタマシ討ちで殺されると言う犠牲の上に、日本国が誕生したのである。

日本国誕生の歴史は、始めは天照大神とスサノオノ命により、

小さな出雲の島と根の国から始まった。約二百年後の大國主命により奈良県より西に広がる大國・大島根の国、いわゆる秋津州が出来た。だが、大島根の国・秋津州と言っても奈良県以西の一部に過ぎない。東には十何倍の人口と広大な肥沃な蝦夷の大地があった。

日本国誕生には大国主命からさらに二百年後の日本武尊を待つ事になる。

初代の天皇と言われる崇神天皇の孫、即ち三代目・景行天皇の子が日本武尊であった。母は吉備の竜王の血を継ぐ王家の出である。

二百年前に大国主を恐れさせた勇猛果敢な吉備の竜王の血が流れ、天皇の子供の内でも特に勇猛であった。日本武尊の幼名は小碓命と言い、双子で双子の兄は大碓命と言った。

大碓、小碓の碓とは、お産の時にも使われたが、穀物を美味しい白いお米にし、お米を突いて美味しいお餅にする道具である。

天皇の農耕文化が産まれた子供、大碓・小碓の効用で殻が取れて白いお米やお餅の如く美味しくなる様に、との意味もあった。

ただ、兄・大碓命は大きく産まれて元気いっぱいだったが、弟・小碓命（日本武尊）は小さく産まれて弱々しかった。

昔は双子と言うと縁起の良い事でもなかった。だから、こんな弱々しい、生きているのか死んでいるか分からない縁起の悪い子・小碓命（日本武尊）は生かしておいても仕方がない、殺してしまえ、と天皇はお産に使った、碓、に向かって大声をあげた。

それを聞いた母になった皇后は、私が腹を痛めた子を勝手に殺さないで、とヒステリックに泣き叫んだ。

こうして世紀の英雄・日本武尊は、大きくて元気いっぱいな兄の大碓命に対し、小さなひ弱な小碓命と命名され、この世に誕生した。

しかし、その後は小碓命（日本武尊）の方が泣き声も大きくなって、気が強くなり、大碓命を押しつけて母乳を吸った。大きくなると、その差は歴然と現れた。弟・小碓命は活発で、双子の兄・大碓命は犬や馬を見るとすぐに泣き出すが、幼い小碓命は犬とすぐに戯れ、馬にのしてくれ、と言って馬も乗りこなした。馬に慣れると手綱も鐙もない裸馬に乗り、脅えている大碓彦の前で笑った。

小碓命（日本武尊）はキリリとした男前の顔立ちで、普段は余り口をきかないむつつりとした子であった。そして喧嘩を吹っ掛けられても適当にあしらい相手にもしなかった。だが、いったん喧嘩となると相手が降参し倒れても足で踏み付けて、血だらけになっても徹底的にやっつける、獣の様な残忍な荒っぽさがあった。

それは天皇には、どことなく残酷で可愛げのない子供に見えたので、天皇は小碓命より気が弱い、優しそうな大碓命を可愛いがった。

景行天皇が九州を平定する前に、天皇は美濃の国に美人の姉妹がいると聞いて双子の兄・大碓命を遣わして、その女の容姿を見に行かした。裸馬に乗り、あっちこっちを朝から晩まで外で暴れまくって遊んでいる小碓命に比べ、部屋の中でばかり居て、余り外に出ない双子の兄・大碓命



を心配したのだ。

親は親バカと言う様に、出来の悪い子ほど愛情をかけ、可愛がり、必死になって、何とか一人前にしたいものである。

ただ大碓命、小碓命共に男前で良い器量をもっていた。九州の熊襲兄弟や蝦夷人、女達が目惚れする輝くばかりの器量であった。

そして大碓命は双子の小碓命・日本武尊と同様に勇猛であった。

それは戦いではなくて女に勇猛であった。

兄・大碓彦は美濃の国に行くと、あまりにもその女が美しかったので女に花を送った。大碓命は馬や犬は好きではないが花が好きだったからだ。性格は違うが大碓命は双子の小碓命（日本武尊）と同様に勇猛果敢である。その晩に、女の部屋に踏み入り、天皇の女を見つけると襲った。女の方も子供ではあるが大碓命の良い器量を見て、皇子だから大切に育てられたからでしょう、とこれを愛した。

それから大碓命は天皇に復命しないどころか、別の女を偽って天皇に差し出した。

その事は天皇の知るところとなって、天皇は大碓命を怨んだが、息子には優しく、とがめる事は無かった。とがめるどころか、大碓命も一人前に成ったかと、ほほ笑ましく思ったのかもしれない。